

新技術活用ビジネスモデル実証・普及事業（新規）

【新技術活用ビジネスモデル実証・普及事業 215（0）百万円】

対策のポイント

食品流通における電子タグなどの新技術や通い容器の普及に向け、新技術を活用するビジネスモデルや通い容器の新たな流通管理システムを構築します。

（食品流通の現状）

- ・ 急速に進展している電子タグなどのITは、情報化の立ち遅れにより労働集約的な作業体系となっている食品流通の効率化や消費者への情報提供など様々な場面で活用できる可能性があります。
- ・ 青果物流通において通い容器を普及することは、物流の効率化、環境への配慮など様々なメリットがありますが、現在の普及率は3%程度にとどまっています。

（課題）

- ・ 食品流通へのITの導入を進めていくためには、多様な食品流通の実態を踏まえたビジネスモデルを構築し、流通の各段階の事業者が一体となって取り組んでいくことが必要です。
- ・ 通い容器の普及に向けては、紛失防止のためのデポジットなどの利用者の負担を軽減することが必要です。

政策目標

食品の中間流通コストを他の施策による効果と併せて2割削減

<内容>

（1）全国的な推進体制の構築・普及

新技術の活用や通い容器の普及に向けて、全国的な推進体制を構築するとともに、新技術等の効果等について普及啓発を行います。

（2）新技術を活用するビジネスモデルの構築

新技術の活用に向けて、物流効率化等を実現するビジネスモデル（最適な活用方法、費用対効果、事業者の役割分担、運用ルール等）を実証します。

（3）通い容器の新たな流通管理システムの構築

通い容器の普及に向けて、利用者の負担軽減を図るため、インターネットを利用して通い容器の入出荷を管理する新たなシステムを構築します。

【定 額】

<事業実施主体>

民間団体等

<事業実施期間>

平成20年度～平成24年度

[担当課：総合食料局流通課（03-3502-8236（直））]

新技術活用ビジネスモデル実証・普及事業費（H20～24年度）

全国的な推進体制の構築（流通効率化推進協議会（仮称）の設置）（H20～24年度）

流通の各段階の事業者が一体となって、流通の効率化に向けたビジョン（役割分担等）を確立し、推進

強力なツール

電子タグ等の
新技術の活用

実用化

新技術ビジネスモデルの実証（H20～24年度）

多様な流通実態、新技術の多様な活用方法等を踏まえたビジネスモデルの構築（全国3地区）

通い容器の普及

課題の克服

通い容器流通管理システムの構築（H20年度）

デポジット等の負担がなくなる新たな容器流通管理システムの構築

運 動

成果を活用

全 国 での 推 進（H20～24年度）

セミナーの開催、パンフレットの作成等による新技術の効果等についての普及啓発

地 方 単 位 での 推 進（H21～24年度）

生産者や市場関係者、量販店等の幅広い関係者による普及推進体制の整備

新技術活用ビジネスモデル実証・普及事業（新技術活用ビジネスモデルの実証）

食品流通改革（コスト削減等）を実現

成功事例（ビジネスモデル）の波及

食品流通の改革に向けて..

多様な食品流通の実態等に応じた
先導的な取組モデルを創出する必要

電子タグ等が強力なツール

事業内容（H20～24）

○新技術を活用し物流効率化等を実現する
ビジネスモデルを実証

ビジネスモデルの内容

- ・多様な流通実態等に応じた新技術の最適な活用方法（導入機能の組み合わせ）
- ・新技術導入に係る費用対効果
- ・生産者、卸売業者、小売業者等の連携内容、役割分担
- ・運用ルール、ノウハウ

○セミナー開催、パンフレットの作成等による
新技術の効果等についての普及啓発

○これらの取組の全国的な推進体制を構築
（流通効率化推進協議会（仮称））

対応

成功事例の創出へ

食品流通の課題

流通コストの縮減等
の改革が急務

物流管理効率化新技術確立事業
（H17～19）

電子タグやEDIを活用し、
市場流通の作業省力化を
実現する新作業体系のひな型
を開発

新技術を普及させるためには...

- ・電子タグ等の多様な活用方法
（多種大量の荷の検品作業を
効率化、温度履歴を記録して
店舗等で情報提供 等）
- ・多様な「食品流通の実態」、
「事業者の戦略」

を踏まえた、多様な成功事例の
創出が不可欠

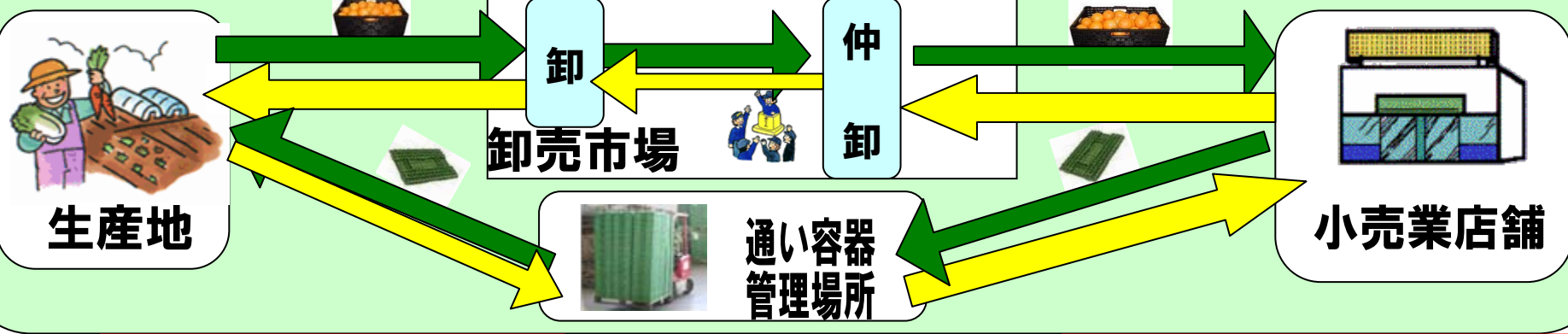
食品流通改革

ユビキタス・コンピューティング技術の急速な発展

新技術活用ビジネスモデル実証・普及事業(通い容器流通管理システムの構築)

現行の通い容器流通の仕組み

通い容器の流れ
デポジットの流れ



- ・デポジット等のコスト負担の発生
- ・それに伴う管理事務コストの発生

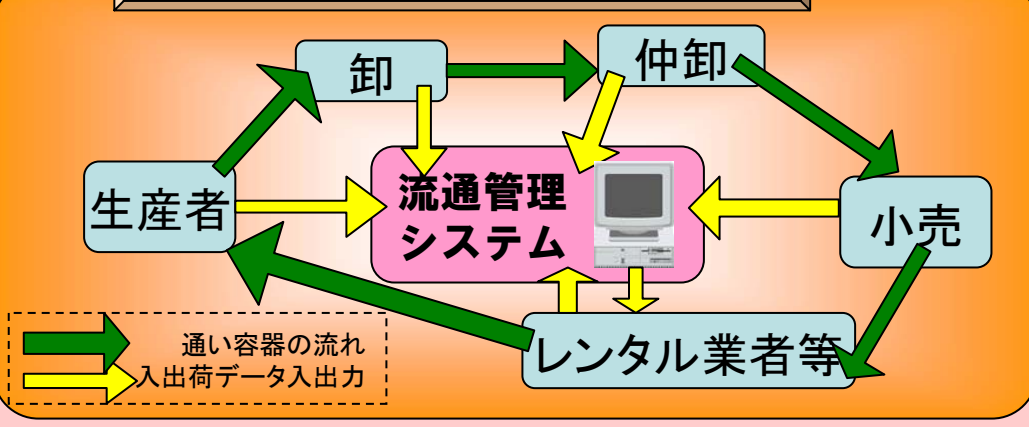
普及が進まないのは…

- ・通い容器のメリット理解が不十分
- ・使い慣れた段ボールで十分という意識

流通効率化推進協議会 (仮称)

通い容器システム検討委員会

新たな通い容器システム開発



普及啓発

生産者、流通業者、小売業者に対し、
通い容器のメリット等を普及啓発

セミナー開催



パンフレット作成

